2020年度政策・制度要求　嘉田由紀子参議院議員に要請

日本退職連合からも国に対し要請行動を行っている「2020年度政策・制度要求」を滋賀退職者連合は、11月20日に友誼国会議員である嘉田由紀子参議院議員に対し実施しました。

要請内容には、 社会保障制度に対する要望など高齢・退職者に関わる様々な諸課題について記載しており、要請書を手交した後、様々な国の政策について意見交換を行いました。

意見交換では、要請内容の他にも新型コロナウイルス感染症の拡大についても嘉田参議院議員の国に対する所感をお聞きでき、大変有意義な時間となりました。

厚生労働省公式ホームページ

健康維持のための情報提供ツール

厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症が流行し、友人や離れて暮らす家族と気軽に出会えなくなり、 家で過ごす時間が長くなった高齢者に対して、新型コロナウイルス感染症に気をつけつつ、 健康を維持するための様々な情報を提供するためにホームページ「通いの場」の開設されております。

家で過ごす時間が長くなると、筋力が落ちて動けなくなったり、気持ちが落ち込んで閉じこもってしまうことなどが心配されます。

こちらのホームページの情報をご参考にココロもカラダも健康になるよう健康にご留意ください。

連合滋賀推薦決定

高島市議会議員選挙

はやかわ　ひろのり

早川浩徳（現職1期）

2021年1月24日（日）告示～31日（日）投票

リフレッシュ滋賀

コロナ禍において私たちが思うこと

第62号 2020．12．4
発行所：滋賀退職者連合
発行責任者：増田　勝治
編集責任者：田中　清道
大津市松本2－10－6
TEL：077－523－0500
FAX：077－523－5600

“木陰ウォーキング”を夫婦で楽しむ

須藤　豊
UAゼンセン友の会滋賀県支部

夏の強い日差しを避ける“木陰ウォークキング”（往復1時間、6千歩、4km、休憩やお弁当タイムを入れ1．5時間）を6コースつくった。毎日その日の“天気や気分でコース選択”をして、ウォーキングを楽しんでいます。5月からコースを考え、 6月中に6コースを完成し、7月からスタートした。

9月中で琵琶湖一周（202km）の距離に概算すると、琵琶湖3周目を達成し、4周目に入るところです。コースは、 何れも自宅から車で10分位のところで、①猪子山コース②伊崎寺コース③④荒神山コース（2コース）⑤曽根沼コース⑥近江風土記の丘コースです。これもコロナ禍の恩恵がもたらしてくれたものと考え、今日も「美しい景色の中、二人の会話も弾み、ごはんが美味く体重維持ができる」最高の一時を楽しんでいます。

コロナ禍でどのような日常を送ったか実体験談

須賀　賢而
NTT労組退職者の会滋賀県支部協議会

コロナ禍で外出自粛のある５月の事です、店の前に「訳アリ商品」として値引きされた滋賀の土産品が“安くしています良ければ買って下さい”（ご協力を）と売られておりました。

コロナ禍においてマスコミ報道が毎日のようにあるように県内各地域の観光地の神社仏閣では、 観光客、見学をする人が少なくなり多くの土産品が売れずに余り、 仕入先に返品された土産品が多数あるようです、後は、廃棄処分になる運命の土産品。

少しでも（もったいない）協力と思いウォーキングに行く毎に、「訳あり商品」を家でのおやつ代わりにと数個ですが購入しています。早く観光客の皆さんがわんさかと訪れ賑わい、 購買力が回復するようコロナ禍の終息を願いたいものです！

コロナ禍において私たちが思うこと

中山　康英
ダイハツ皐月会

新型コロナウイルスは、 これまでの生活環境を一転させ、今までの当たり前が当たり前でなくなりました。　政府の処置は、経験した事のない「未知のウイルス」だけに対応は、 後手、 後手となり特に高齢者や持病の方に危機が迫り感染の不安が広がり都市部の感染者が日々増加しました。

当初は強制力のない自粛要請での展開となり感染防止の歯止めがかからず、イベント関係はすべて中止や延期になり外出時は三密を心掛けてできるだけ控え自宅にいる生活が続きストレスも溜まる一方、 日頃の時間の使い方を見直すよいきっかけになり十分に出来なかった趣味に没頭できた事は、コロナ禍の影響も必ずしも悪い事ばかりではない経験をしました。

With コロナは社会生活を変えるチャンスにも繋がるかも知れません。今からでも遅くないので自分の好きな趣味を始めてはどうでしょう。

コロナ禍に思う

東木　武夫
JP労組滋賀連協退職者の会

長く生きてきた私にとって、 コロナ感染の恐怖から抜けられず、行き場もなく、友人・知人との親睦、交流もなく、退職者の会の行事も、 すべて中止という経験したことのない、寂しい生活を送っています。

高齢者と基礎疾患者は特に重症化しやすいと言われており、生活を見直し、感染しないように十分気をつけて頑張りましょう。

政府は、これだけ感染が広がって国民の命が脅かされているにも関わらず、誰もしないマスクを全戸配布、自粛を促している中で旅行の補助金をだして、 良識ある国民のひんしゅくを買う、 コロナに関する給付金の給付業務の選考が不透明であり、特定のつながりの強い企業の利益のために使っている疑いがあるなど、 本当に国民のことを考えて行っているのかという事象が後を絶ちません。

こんな政権を一日でも早く終わらせましょう。

このコロナ禍下の日々に思う

清水　達久
滋賀県退職教職員協議会

パンデミックが世界中を不安に陥れている。医療や福祉・教育の現場等では、懸命にいのちを守る・いのちと寄り添う活動が続けられている。心からの感謝のことばしか無い。自分もこのコロナ禍下での不安に苛まれ、ストレスを感じる今日この頃、他者のために尽力されている方々には「慈悲の心」を感じる。残念なことにこうした方々への偏見や中傷が起こってきている。

こうした悶々としたやるせない時期であるからこそ、お世話になっている多くの方々に感謝の心で応えたい。殺伐とした空気になりがちなこんな時だからこそ、自然の中で日々生かされていることに感謝し、一日も早いワクチンの開発にも期待を寄せ、ある面、鈍感力で、おおらかな気持ちとしなやかさで、この難局をお互いの努力や協力で一歩一歩乗り越えて行きたい。

安倍は去っても新型コロナウイルスは残る

大辻　亘
全印刷局退職者の会彦根支部

ダイヤモンド・プリンセス号で新型コロナの集団感染者が出た。海上船中での隔離なら感染は広がらないと思っていたが既に空から侵入していた。

それからの政府対応は右往左往のドタバタの連続だった。小中高校の一斉休校、緊急事態宣言発出一人10万円の配布、思いつきのアベノマスク。滑稽だったのは自粛の手本としてソファで寛ぐあの姿。国民が一番苦しんでいる時期に庶民感覚と程遠い動画だった。自分や妻も関わっていたモリ。更にカケ、サクラや今回のコロナ対応で野党からの国会開催要求を拒否し続けた。これは佐藤元首相の持つ連続在職期間2798日を越えたい一心だけ。偶然うまく持病が再発してくれたので？国民の負託に応えられないとして辞任した。立つ鳥跡を濁す安倍首相長い間ご苦労さん。これ忖度？

雇用を守る新たな政策に期待

房登　良和
電機連合歴代役職員懇談会

失業者数が6万人を超え（9月24日 NHK 報道）、休廃業の企業が前年同月比23.9%増加（10月5日 NHK 報道）した。国では雇用調整助成金、持続化給付金、滋賀県では新型コロナ対応資金などの新型コロナ支援策により事業の持続と雇用の確保に取り組まれている。それは一定の成果が出ていると思う。

ただ、手続きの煩雑さや経営悪化で休業手当を支払わない企業も少なくない。また、経済の先行き不安から止む無く休廃業する企業や売り上げの減少で人員削減を余儀なくされ雇止めされるパート・アルバイト等の非正規労働者の増加が前述の数字ではないか。

各省庁や滋賀県では、労働者や中小企業・小規模事業者向けの相談窓口を開設し対応しているが、県内の労働者数や企業数に対する利用者はまだまだ少ない。

経済対策として GOTO キャンペーンやプレミアム付き商品券の施策がスタートしたが、収入がなくなった失業者には利用すらできない。中小企業・小規模事業者を救済し雇用を守る新たな政策を新政権に期待する。

コロナ禍において私たちが思うこと

自治労滋賀退職者会
坂谷　達也

田舎の集落では、誰もが氏子で氏神（玉尾神社）さんをお祭りします。そして歳の順に社守を務めることになります。私も昨年末までの2年余り社守を務めることになりました。例年1月2日勧請縄（長さ15m・径15cmのしめ縄）作りと飾り変えを社守が担当することになります。神社境内の入り口に飾るのですが氏子がこの下をくぐれば1年間「無病息災」で過ごせるという言い伝えからだと思います。「茅の輪」くぐりも同じだと思います。医療・科学が今ほど進化していない時代、病魔に対する不安や心の支えを氏神さんに祈願したのでしょう。毎日、新型コロナウイルス感染者数が報道されます。現代医療でしてもコロナ禍の封じ込めには時間がかかりそうです。ウイルスを画像で観ることはできても目で見る事はできない、医療現場・福祉施設や介護の従事者の皆さんのご苦労は想像を超えるものがあると思います。そしてコロナ禍が格差社会の実態も明らかにしました。行動自粛と言っておざなりにしてはいけないと思います。

コロナ禍について私たちが思うこと

中島　幸雄
関労滋賀地区OB会

新型コロナウイルスの猛威は、まさに世界を震撼させました。私たちは力を合わせて、この恐ろしいウイルスとの闘いを乗り越えていかなければなりません。それには相当の覚悟が必要ですし、時間もかかると思います。

長期化するウイルスとの闘いにおいて「三密の回避」「新しい生活様式」といったことに対して慎重な行動を心掛けておりますが、毎日報道されている「新型コロナウイルス関連」には「うんざり」していますし、感染症を避けるため閉じこもる生活に疲れ果ててしまっているのが現状ではないでしょうか。

しかし、家族や自分自身の「命と健康」を守るためにも乗り切らなければなりません。この機関紙が発刊される頃には少しでも元の生活に近づいていることを切に願っております。

コロナ禍において私たちが思うこと

山元　明
JAM滋賀シニアクラブ

中国武漢からと言われる新型コロナウイルス感染症は世界的に猛威を振るい、その脅威は今年の2月頃から日本においても国民を震撼させるものへと変化していきました。あらゆる媒体を通じて日々感染の実態が報告され、政府は感染拡大対応策を打ち出すものの、後手後手感は否めませんでした。ある意味、国民を信じ動きを封じる事でしか具体的な効果は出せなかったのではないかと今になっては思います。コロナ禍の中で多くの事を感じました。1つは一国のリーダーの有り様です。何を信じ、誰を頼れば良いのかです。2つ目は企業の経営の在り方や労務管理（従業員対応や各種申請の有り様）です。労働相談への内容が会社から従業員に対し、あまりにも杜撰としか思えない。一事が万事としか思えないという事です。3つ目は人としての有り様です。コロナ禍での人権問題です。いずれも今後の人生で胸に刻み込み自らを戒め日々の生活を送りたいと考えています。

物を大切に！

徳村　泰佑
江若交通退職者友の会

人類は紀元前から様々な感染症と戦ってきた。スペイン風邪、エイズ、SARS、新型インフルエンザなどの感染症パンデミックを経験していますが、現時点では特効薬もなく三次感染と拡大しつつある。私たちも昭和のオイルショックにトイレットペーパー争奪を経験した。物にあふれる時代にニュース報道により今回はマスク、うがい薬、ペーパー、手洗い洗剤等が一瞬で店舗から無くなった。何もかもが安価で入手できる時代の中、国民に不安感を与えマスク価格が8倍まで膨れ上がる。私たち高齢者は今まで幾多の困難を乗り越えてきて現在に至る。無ければ家庭にあるもので作成すればいい。今の時代は使い捨ての時代である。しかしそれで良いのか。今一度、国民が物に対し見つめ直す良い機会ではないだろうか。

事務局より

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、例年行っている、グラウンドゴルフ大会や近畿ブロックハイキング、滋賀県退職者集会などの諸行事を中止せざるを得ない状況となり、皆さまの交流の機会をもつことができず、大変申し訳ありませんでした。

また、第3波の感染拡大が猛威を振るう中、インフルエンザなども気をつけなければいけません。

皆さま、十分健康に留意いただきますようお願い申し上げます。